

会 議 記 録

作成部局課名 塩田地域自治センター

開催日	平成 21 年 8 月 24 日(月)	開催時刻	13 時 30 分から 15 時 40 分
会議名	塩田地域協議会(平成 21 年度第 5 回)		
出席者	委員 18 名(欠席者 2 名)		
事務局 出席者	出席職員 神林センター長 高橋地域交通政策課長 田中課長補佐兼地域交通係長 上田電鉄(株)取締役高田管理部長		

会議次第

- 1 開会 (塩田地域自治センター長)
- 2 会長あいさつ (大口会長)

概 略 低温障害注意報が出されているが、わがまち魅力アップ応援事業を活用した本田路津子コンサートは盛況でよかった。交通安全には、十分注意していただきたい。別所線電車存続について市、電鉄との意見交換を行い 11 月に意見書を出したいので、一步進んだ協議をお願いしたい。別所線は、市や塩田地域にとって大きな財産である。観光についても十分な協議を行い、一步進んだ地域の発展から上田市の発展へと結び付けたい。

3 協議事項

- (1) 別所線電車存続について(担当課：地域交通政策課)

説明要旨

別所線は、大正 10 年に開業し同 13 年には上田駅まで乗り入れるようになった。鉄道は、他の路線も合わせて全長 57.2 km あった。平成 12,13 年に京福電鉄の事故があり、国の安全点検の改善命令が出され、多額の整備費がかかるようになり公的支援の陳情を受けた。10 年間の緊急安全対策設備投資による整備内容は、車両更新、レール交換・重量化、軌道強化、踏切更新などである。

別所線再生支援協議会では、「乗って残す」など各種の取組みをいただいた。平成 8 年には約 177 万人の利用者が、平成 17 年には約 123 万人となり、平成 18 年から増加傾向となった。利用促進のため自治会回数券を斡旋し、平成 21 年春には 1,294 万円の売り上げをいただいた。他には、パークアンドライドの整備を行っており、その成果として国土交通大臣から「平成 20 年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞した。

課題に対する回答

- 1 運賃
シルバー運賃については、自社単独での実施は難しいので今後の協議となる。特例はなくオレンジバスは、60 歳以上は無料であり県内 6 市は割引制度がある。電車やバスを含め、高齢者福祉として捉えればという考えもある。
- 2 定期券、回数券
定期券代の割引は、現状では厳しい。一部中学生の通学定期において、公的支援があれば可能である。回数券は普通回数券、自治会普通回数券、水曜日ふれあい回数券、期限なし回数券(金券式)の 4 種類があり賢く使い分けていただきたい。

3 運用について

自転車を電車に載せる場合は、自転車を小さくして荷物扱いとした場合に限るとされている。特にワンマン運転では、乗客の安全を確保するのに厳しい。イベントなどでは、特例として条件を付けて実施している。しなの鉄道では、期間を定めてサイクルトレインとして一日2往復(自転車持ち込み料金200円)運行したが、ワンマン運転では、乗客の安全を確保するのに厳しく今後の協議となる。

4 別所線の経営状況について

年間約1億円の支援をいただいております、その約1/4は国の補助金であり、約1/2強は上田市からの補助である。バス事業は、33路線あり約1.3億円の補助をいただいているが、収支で見ると赤字続きである。会社全体で計算すると、相殺されている場合があり電車事業だけだと赤字になる。

5 上田市の公共交通政策に対する考え方について

市では、市町村合併に合わせて、平成18年から19年にかけて公共交通計画作りをした。別所線電車存続についての特効薬はなく、住民が「乗って残す」運動を展開するしかない。

電車は、レールがあることにより安全で、CO₂も排出することなく渋滞の心配も要らない乗り物である。電車を残した場合の経済効果は、今後30年間で約109億円バスでは約26億円、差し引き約83億円の経済効果となる試算がある。

6 住民の協力

別所線電車存続については、地域住民が関心を持って「乗って残す」取り組みが重要である。運動の歴史としては、廃止に対する地域の母親による反対運動、支援に対する大蔵省(当時)への陳情を行った経過がある。(竹内市議回顧録)バス路線の沿線住民は、危機感がないが電車の利用者は、自分たちの鉄道として愛着を持って駅舎の清掃をされている方もある。

主な質疑

- ・ 別所線については廃止されると困る人、残すことに協力する人、別所線は走る文化財なので、寄付してでも残したいと思う人などがいると思う。記念切符のアイデアはたいへん良い。「乗って残す」運動には限界があるが、不便でも環境のために残したい。
- ・ 回数券の利用状況(売れた物の内どのくらいが使用されているか)はどうか。目玉商品の開発や周遊券の活用などはどうか。
- ・ 別所線電車は、観光にとって貴重な財産である。「乗って残す」方法はどうすればいいものか。中心市街地へは、自家用車で行くと時間は約1/2、経費は約1/3で玄関から玄関へとなり、電車の活用は厳しい。
- ・ 通学の定期代が高いので、安くなるよう検討できないものか。
- ・ 自治会回数券の利用期間を延長して欲しい。
- ・ 「乗って残す」方策として、昼間の時間帯に自転車を乗せられないものか。
- ・ 別所線の利用者に対して、上田駅に貸し出し無料の自転車を用意するとか、商店と提携して商品の割引を検討するなどして欲しい。

- ・ パークアンドライドの活用として、車を数日駐車した場合に不安がある。パークアンドライドの制度の周知をしてはどうか。
- ・ 地域へ働きかけると、住民が自ら協力してくれた例がある。
- ・ すれ違いの出来る駅は、八木沢でなく舞田はどうか。舞田駅は、西塩田の神社仏閣に近いので観光地としてもどうか。また、昼間は一両編成の運行は出来ないものか。
- ・ 交換駅として中塩田はどうか。
- ・ 交換駅については、今後検討して欲しい。(八木沢、舞田、中塩田)
- ・ 日常乗る人を増加するための行政としての取組みはどうか。
- ・ 住民が、危機感を持って取組まなくてはならない。住民のために行政は支援をすると市の幹部が言っていた。
- ・ 別所線の利用について、公立学校の教職員への働きかけなどはどうか。
- ・ 運賃のkm単価の比較をしたいので、県内各私鉄の単価の提示を要望する。

回答

- ・ 11枚綴りの回数券の有効期限は、4ヶ月だが期限の延長について今後検討したい。金券回数券のほうがよい。記念切符は好評で住民への情報の周知を検討したい。7月末に各駅や情報誌により情報を発信している。
- ・ 回数券は、売上げ全体の約9%を占めているので買いやすいもの、利用しやすいものを目指していきたい。
- ・ 売れた回数券の利用状況は不明である。観光客への働きかけも重要である。平成19年(風林火山)バス約300台で約10,000人、平成20年バス約200台で約8,000人の来客があった。
- ・ 電車の運行本数を増加することを考えている。別所温泉から下之郷の間で、すれ違いが出来る駅を検討している。上田交通の課題として、2回目の支援(3年間)が終了するので、平成22年度のことについて現在検討中である。課題としては、千曲川橋梁(大正13年建設)の補強や塗装などの土台工事、別所温泉から下之郷間に、行き違い施設の設置を検討している。(候補は八木沢駅)
- ・ 定期券は、普通運賃をベースに通学定期は約50%割引、通勤定期は約35%の割引となっており他の鉄道と比較されても高くないと思う。普通運賃は、高いかもしれない。
- ・ 運行にあたっては、自転車を載せた場合の安全対策が課題となる。しなの鉄道では、ベルトを着用するうえ乗務員が必要になるとしている。
- ・ 大学前駅には、30~40台/日の利用があるが、舞田駅の利用は少ない。人件費が高いため、十分な保安対策が取れないでいる。
- ・ 上田原駅は、パークアンドライド施設がなく不便だと言われており、万代書店の屋上を使えないか検討中である。
- ・ 上田から別所温泉までは約30分要し、運転間隔を縮めるには中間駅でのすれ違いが必要である。すれ違い施設のない下之郷から別所温泉の間で、最も有効な駅は別所温泉であり次は八木沢が有効である。車両編成において、昼間は1両編成も良いが朝夕の1両編成は厳しい上、車両の改装も必要になってくるので実現は厳しい。
- ・ 別所線電車の存続については、地域に根ざした運動として残したいと思う住

民が自ら考えるものである。

- (2) 塩田の観光について(担当課：塩田地域自治センター)
塩田の観光については、時間の関係上次回にまわす。

- (3) その他
特になし

- 4 その他
特になし

- 5 閉会